

本年度の学校評価を公表します

令和6年度 重点指導目標と具体的取組

【4段階評価】 4…期待以上(8割以上) 3…ほぼ期待どおり(5~8割未満)
2…やや期待を下回る(3~5割未満) 1…改善を要する(2割未満)

目指す 具体的な姿	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
		評価	成果・課題等	評価	成果・課題等
確かな学力の定着 【基礎から応用まで、個に応じた力を身に付ける場】					
1 夢や希望に向かって努力し、意欲をもって学び続けようとする。	○ 個に応じた指導・助言・激励を徹底し、学びへの意欲を高め持続させることができたか。	3	理解に時間のかかる内容については、互いに話し合わせながら学びの意欲が持続するように配慮した。校内配置の工夫による各教科指導を行い、各教科の基礎・基本が身に付くまでの見届けを行った。 一人一台端末環境を利活用し、情報の収集や表現ツールとして児童に使用させた。また、デジタル教科書を教材作成や教授資料として利活用した。	3	標準学力検査CRTの結果、国語科は昨年並み、算数科は大きく伸びていること。複式指導解消のために、算数科の指導体制を見直して単式指導を行った成果が出ている。 国語科の力は他の活動にも繋がる。図書室増設をしたことで、読書推進も継続してほしい。
	○ 全教育活動を横断的にとらえ、関連付けた指導を行うことにより、学ぶことの意義を感じさせることができたか。		○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。		
2 確実に身に付けなければならない各教科の基礎・基本を身に付け、学んだことを様々な面で生かすことができる。	○ 各教科の基礎・基本が身に付くまで見届けることができたか。	4	○ 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データを利活用することができたか。	4	○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。
	○ 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データを利活用することができたか。		○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。		○ 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データを利活用することができたか。
	○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。		○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。		○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。
豊かな心の育成 【コミュニケーション能力を育む場】					
1 しっかりとし、たあいさつ・返事ができる。	○ 誰に対してもしっかりとし、あいさつや返事ができるように指導することができたか。	4	声量や声の張りにはやや課題があるものの、あいさつや返事は良くなっている。 本年度は子ども同士のトラブルが極めて少なかった。また、耳の不自由な方を講師として招聘したことでのよりよい対応の在り方や、思いやりの心を醸成する大変良い機会となった。	4	大窪フェスタでは、児童全員が協力して総合的な学習の時間の発表をしていました。協力して成し遂げたことが思い出に残るのではないか。お互いに仲良く過ごし、生き生きとしている。少ない中でも、豊かな心が育っている。
2 自分も周囲の人も大切にすることができる。	○ 自分の良さに気付かせるとともに、思いやりをもって周囲の人に接することができるように、道徳科や日常生活の中で継続的に指導を行うことができたか。		○ 授業のみならず、掃除や昼休みなど、「伝えること」の機会を多くし、機会を捉えて指導を行った。		○ 同学習や集合学習を通じてコミュニケーションをはかる内容が充実し、子ども達も他の学校の児童とより多くコミュニケーションをとることができたと満足そうであった。
3 先生や友だちの話をしっかりと聞いていたり、自分の気持ちや考えを上手に伝えたりすることができる。	○ 児童が多様な考え方につれたり、自分の考え方を表現したりするための機会を意図的に設定することができたか。 ○ 他校児童との交流学習等を通して、コミュニケーション能力を高めることができたか。		○ 児童が多様な考え方につれたり、自分の考え方を表現したりするための機会を意図的に設定することができたか。 ○ 他校児童との交流学習等を通して、コミュニケーション能力を高めることができたか。		○ 児童が多様な考え方につれたり、自分の考え方を表現したりするための機会を意図的に設定することができたか。 ○ 他校児童との交流学習等を通して、コミュニケーション能力を高めることができたか。

令和6年度 重点指導目標と具体的取組

【4段階評価】 4…期待以上(8割以上) 3…ほぼ期待どおり(5~8割未満)
2…やや期待を下回る(3~5割未満) 1…改善を要する(2割未満)

目指す 具体的な姿	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
		評 価	成果・課題等	評価	成果・課題等
たくましい心と体づくり 【心身の健康を自ら安定させる力を育む場】					
1 自分の心と身体を健康な状態に保ち、たくましく学校生活を送ることができる。	○ 心身の健康に関する授業等を計画的に実施するとともに、常時指導を行うことができたか。	4	心身の健康に関する内容について、給食時に Observe(観察)、Orient(方向づけ)、Decide(意思決定)、Act(行動)の OODA(ウーダ)ループにより効果的に指導することができた。また、本年度は保健学習に加えて児童が救急救命法や防災を学び、知識を広げた。頭痛や腹痛に悩まされる児童に対して、家庭と連携を図りながら困難を乗り越える指導を行なうことができた。	4	大窪フェスタの体育科発表を見て、体力がついてきていると感じる。今後の成長が楽しみである。 本年度はさまざまな災害が起きたが、さまざまな防災教育を充実したということで、生きていく力を高める上で大変良いよい取組である。
	○ 児童の心身の状態を的確に把握し、家庭と連携を図りながら、少々の困難は自分の力で乗り越えることができるようになるための継続的指導を行うことができたか。				
特別支援教育の充実 【特別支援教育の基本的な考え方の理解と取組】					
1 児童は一人ひとり異なる特性をもつことを理解したうえで、互いを尊重し、協力して全員にとって居心地の良い場所づくりをしようとする。	○ 特別な支援を必要とする児童生徒の困り感を的確に把握することができたか。	4	教員の望ましい関わりや言動によって、児童の特性や性格を周りの児童が理解し見守りや叱咤激励を行い、互いに尊重・協力して居心地の良い学校学級づくりに努めていた。インクルーシブ教育の理念そのものを実践することができた。	4	特別支援学級だけでなく、全校挙げて個性に応じた教育を展開している。その成果として、児童の笑顔あふれる学校になっている。
	○ インクルーシブ教育システムの理念を理解し、具体的対応の在り方を検討することができたか。				
家庭・地域との連携の推進 【体験活動等を通して自然や社会から学ぶ場】					
1 伝統文化の継承に真剣に取り組み、ふるさとを誇りに思う心をもつことができる。	○ 動きを覚えることにとどまらず、伝統的文化の概要や継承者の心情等を発達段階に応じて伝えることができたか。	4	寺村剣棒踊り保存会による伝統文化的な継承を教育課程に取り込むとともに、寺村「お釈迦祭」や三世代交流事業等に参加し、地域の願いを汲み取ることで、伝統的文化について触れる機会を得た。	4	地域行事に積極的に参画し、意欲的である。地域行事や地域学習等を通して、大窪出身であるという誇りをもつのではないか。
	○ 各種通信、学校ホームページを有効に活用することができたか。				
2 教師と家庭が積極的に情報及び意見交換を行い、考えを共有することができる。	○ 学校運営協議会、参観日、学校保健委員会の充実を図るとともに、日頃から良いことも心配なことも保護者・地域と情報を交換し、意思の疎通を図ることができたか。		アクセス数が年間30万件の閲覧があり、児童の帰宅後の家庭会話や学校・学級通信による間接的なつながり、児童の送迎時等の会話による直接的なつながりにより、情報共有が図られている。		伝統を守り、学校の特長を生かした教育活動を続けてほしい。 南九州大学の学生との交流も大変意義がある。